

第9回 中国圏広域地方計画学識者等会議 議事要旨

■日時:令和8年3月17日(火) 10:00~10:50

■場所:中国地方整備局 建政部 3階 会議室 及び WEB

出席者:別紙のとおり

議 題

- 1) 新たな中国圏広域地方計画について
- 2) 今後のスケジュールについて

【配布資料】

- ・議事次第、出席者名簿、配席表
- ・資料1:新たな中国圏広域地方計画 計画素案
- ・資料2:中間とりまとめ(案)からの主な修正点
- ・資料3:新たな中国圏広域地方計画 概要版(案)
- ・資料4:新たな中国圏広域地方計画 ダイジェスト(案)
- ・資料5:新たな中国圏広域地方計画の推進について
- ・資料6:新たな中国圏広域地方計画の策定スケジュール
- ・参考資料1:学識者等会議 規約
- ・参考資料2:中国圏広域地方計画 中間とりまとめ(案)概要版
- ・参考資料3:中国圏広域地方計画 中間とりまとめ(案)
- ・参考資料4:中国圏広域地方計画 説明資料
- ・参考資料5:中間とりまとめ(案)からの修正一覧

1. 開会

挨拶(中国地方整備局 杉中局長)

- 本計画は、地域の様々な課題に対応するための将来像を明確にし、実現する戦略を示すものである。
- 前回6月の学識者等会議で議論した内容を、10月に計画の中間取りまとめ案として公表した。
- 国土形成計画の動向として、昨年11月に地域未来戦略本部が設置され、地域ごとの産業クラスターを形成することとなった。産業クラスターの動向を踏まえ整合性を図っている。
- 本計画を通じて、国、地方公共団体、経済界が一つのビジョンを共有し、一丸となり取り組みを進めていきたい。
- 本日の会議では、計画の推進の方向性についてご意見をいただきたい。

渡邊座長(福山市立大学大学院)

- 今朝の新聞に「縮充」という言葉があり、人口が減少する中でも充実した地域をつくるという意味合いであると理解した。人口減少は避けられないが、活躍してもらって地域に元気があってほしいという中で、本計画で掲げる「活躍人口」が、それを実現するための重要なキーワードになると感じた。

○本日の議題の新たな中国圏広域地方計画について、これまでの意見に対する事務局の回答と、今後の計画のフォローアップについてご意見をいただきたい。

2. 議題

1) 中国圏広域地方計画(中間とりまとめ(素案))について

事務局より「1) 新たな中国圏広域地方計画について」を説明。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

○各委員の皆様から意見、質問等がありましたら発言をお願いしたい。

氏原委員（岡山大学学術研究院）

○これまでのコメントに対し、中間取りまとめ案への修正・反映がなされていることを確認した。

○広域地方計画の推進について、具体的な指標を設定し、目標の達成状況を確認するということだが、どのような指標を採用するのか、指標を検討するスケジュールを確認したい。

守山事業調整官（中国地方整備局）

○指標の設定については、来年度の協議会において協議のうえ検討していきたい。なお、各プロジェクトで整理した代表的な個別事業のモニタリングは実施予定である。

○目標達成状況の確認は毎年実施していく予定であり、各年度の後半（年末から年度末にかけて）に設定した指標に対して調査を行うことを想定している。

氏原委員（岡山大学学術研究院）

○「活躍人口」は本計画の重要ポイントだが、その定義は「地域を思う、地域の力になってくれる人」と、指標として評価が難しいと感じた。定義が曖昧なままでは、指標の数値が大きく変動してしまう恐れがある。「活躍人口」をどう定義し、どういう指標を設定するかということも含め、議論が必要と感じた。

大島委員（一般社団法人データクレイドル）

○「どういう風に、何を目標にし、何を確認して進めていくか」という視点が極めて重要である。「場の創出」の評価指標は、開催回数や参加数といった形式的な数値のみならず、人と人のつながりや創出された成果などの「実態」を捉えるべきである。

○本計画を意識せず、地域で活動している既存の取り組みを「活躍人口」の活動として再評価し、認めて育てていく視点も取り入れたい。活躍人口は生活圏のみならず、広域観光や産業創出においても期待できるため、それらの分野との関わりについても議論の必要性を感じた。

加納委員（中国新聞社）

○活躍人口について、検討段階ではあるが、現段階で具体的にカウントできるものなのか、あるいは人数で測る性質のものではないのか、その捉え方を確認したい。

守山事業調整官（中国地方整備局）

○活躍人口を計測する統計的手法は、現時点では存在しない。様々な集計の仕方を検討していく。

加納委員（中国新聞社）

○本計画は大変興味深く、非常に良い計画になったと考えている。

○策定にあたっては県民・国民への周知が重要であり、特に情報が届きにくい若い世代に対し、どのように届けていくかが課題である。パブリックコメントの実施を含め、SNS 等を活用しながら、幅広い世代に情報が届くような周知の取組を期待したい。

神田委員（呉工業高等専門学校）

○これまでの議論を反映していただきありがとうございました。

○インフラ整備の概念が「つくる」から「つかう」へ移行する中、完成という明確なゴールが見えにくくなる。誰がどう動くか、役割は何かという意味統一の難易度が格段に高まることを認識すべきである。特に地方では拠点を整備する人手やノウハウが不足しており、計画の実現に向けて、体制や技術力、専門性といった「遂行能力」にまで目配せした進行管理が必要である。単なる KPI 管理に留まらず、実行のための「パフォーマンス、戦闘力」を評価・確保する視点が不可欠である。

○中山間地、過疎地、人口減少地域が多い中国地方の特色を鑑み、企画段階から担い手不足を横断的にカバーするなど、実行目線に立った先陣を切った取組の推進に期待したい。

鈴木委員（山口大学大学院）

○これまでの様々な意見にすべて対応していただきありがとうございました。

○今後は計画のコンセプトをいかに一般へ伝えるか、アプローチが重要になる。「活躍人口」を例としても、産業、観光、地域の文化、社会活動、防災、教育など多岐にわたる分野に存在するため、これらを分かりやすく、具体的に周知していく必要がある。立派な提言書が完成したので、産業、教育、様々な分野において、知っていただき、実践していただく取り組みが重要と感じた。

○各分野の活動を行政がいかにサポートし、後押しできるかが重要であり、同時進行を実現するため、進行管理が重要である。

谷口委員（一般社団法人中国経済連合会）

○良い計画を作成いただきまして、ありがとうございました。

○「クラスター計画」「広域リージョン連携」といった異なる省庁の計画が進む。本計画の実施段階においても、中国地方の各出先機関が緊密に連携し、着実な成果把握に努めてほしい。

○デジタル技術が進む時代だからこそ、人材の視点が極めて重要である。その意味で「活躍人口」の概念を推進する本計画を高く評価する。

○成果や進捗状況の把握にあたっては、数値のみならず、具体的な「事例」を丁寧に集積していくことが不可欠である。特に、活躍人口の状況把握を検討する際は、若者、女性、外国人、高齢者、ハンディキャップの人たち、域外の専門人材といった「カテゴリー」を意識した視点を取り入れ、支援することも非常に大事と感じた。

森委員（島根大学）

- 「活躍人口」とは、「関係人口」の中でもより深く地域に関わり、担い手不足等の地域の抱える問題の解決に貢献する、よりコアな「関係人口」を指すと理解してよいかを確認したい。
- 中国地方の活性化や振興を考えると、中国5県共通の課題である農業の担い手問題が非常に重要となる。農業を生産から消費まで一連の「フードシステム」の一つの産業として捉えたとき、「関係人口」の創出が政策的にも重要と感じた。また、農業や地域産業を媒介とした、より深い関係人口である「活躍人口」の創出は、中国地方の活性化の鍵となると感じた。そこで、農業や地域産業と結びついた「活躍人口」の創出について、国や中国地方としてどのような具体策やアイデアを考えているか伺いたい。

守山事業調整官（中国地方整備局）

- 「関係人口」の中でも、よりコアに地域に関わり、問題解決に貢献する方々が「活躍人口」であるという認識で相違ない。
- 活躍人口は、地域にルーツを持つ人などがより主体的に地域活動へ参画する姿を想定している。こうした層を如何に創出していくかは大きな課題である。今後、農業分野等の具体的な創出のあり方も含め、フォローアップの中で委員の意見を聴きながら、把握手法を検討していきたい。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

- これまでの議論を踏まえ総括する。
- ①計画推進のフォローアップとして、活躍人口の評価について引き続き検討していく必要がある。活躍人口の評価について、量的側面だけでなく質的な評価を重視し、具体的な事例収集や実践者への丁寧なヒアリングを通じて実態を把握する情報収集も有効と考える。引き続き推進の方向性について、アイデアをいただきたい。
- ②「産業クラスター」や「広域リージョン連携」といった新たな考え方は、つなぐ・つながるという意味で関係人口・活躍人口のベースとなるものである。これらが本計画でフォローできている点の評価しつつ、今後はそれらを機能させるための仕組みを継続的に注視していく必要がある。
- ③計画策定をスタートと捉え、協議会が単なる形式的な場にとどまらず、情報の収集や交流を通じて広域地方計画を推進するプラットフォームとして機能することを期待する。
- 続いて、「2）今後のスケジュールについて」ということで、事務局から資料説明をお願いしたい。

2）今後のスケジュールについて

事務局

- 計画書案について、協議会での議論の後、法定手続であるパブリックコメント等を経て、6月頃の大蔵大臣決定を予定している。

渡邊座長（福山市立大学大学院）

- 以上をもって、議事については終了する。

鎌田推進室長（中国地方整備局）

- 協議会事務局一同、計画策定をスタートと捉え、協議会および事務局が推進のプラットフォームとし

て、計画の推進に努める。

- 知ってもらうこと、アプローチが大事だご指摘いただいた。広報活動の強化を含め、計画を周知するためのアプローチを実施していく。
- 活躍人口の把握の仕方について、議論が必要と考える。実務的に整理できる指標やアウトプット、アウトカムは協議会で把握する。
- 活躍人口の分野は協議会のみでの検討が困難な側面があるため、有識者や学識経験者の指導を得ながら、内容の把握に努める。本分野は事務局が推進役を担い、広報や場づくりを含め、関係人口、活躍人口を進めていく。

3. 閉会

金子局長（中国運輸局）

- 本計画は、今月閣議決定予定の第5次観光立国推進基本計画の反映など、他の動向を踏まえ、引き続き修正を行っていく。
- 計画の推進に努めるとともに、今後とも引き続き忌憚のないご意見を賜りたい。

事務局

以上をもって、第9回中国圏広域地方計画学識者等会議を終了する。

以上